

十三億分の一の男

中国皇帝をめぐる人類最大の権力闘争

峰村健司 朝日新聞国際報道部機動特派員 小学館

優れた国際報道の貢献者に贈られるボーン上田賞を 2011 年に受賞、ひたすら現場を歩き米中当局者 50 人以上の「証言」に裏付けされた、唯一無二の国際ノンフィクション。

(**プロローグ**) 私が 1 年間追い求めてきた女性が今日の前にいる 2014 年 5 月米国ハーバード大学に在籍、習近平の一人娘・・・私は 07 年と 12 年の二度にわたる共産党大会や 08 年の北京五輪等の大きなイベントを取材する機会に恵まれ日中関係を悪化させた中国製冷凍餃子毒物混入事件や 10 年・12 年に吹き荒れた反日デモも現地の最前線で見えてきた、どの現場の会見でも底流に見えたものは権力闘争だ、水面下では激しい攻防、まさに死闘と云っていい。党内闘争を勝ち抜いたものだけが自分の都合のいい様に法律を解釈し自分に有利になるよう規則を運用している。13 年夏北京特派員を終え客員研究員として米国ハーバード大学に招かれた、訪米する中国要人の多くが立ち寄って講演する講演の内容や場所等を手配するのも研究所の役割、中国共産党は路線の対立や闘争が繰り返され党員は入党した瞬間から闘いが始まり出世街道を、一つずつ上がる度に闘いは激しくなり勝ち続けなければならない「敗北」と云う恐怖に怯えながら必死に這い上がり、もがくことで世界第二位となり中国が未来に向かって進む為のパワーを生み出しているのではないか。こうした見方をすると習の見方も変わってくる、過去に例のない激しい闘争の末に誕生したからこそ共産党にとって最大の正当性を持ち、歴代の指導者より権力基盤をより早く強固にすることが出来たと云える。

第一章 **愛人達が暮らす村** ～中国人専門の「産後ケアセンター」～

中国政府が人口増加を抑える 1979 年から実施している“一人っ子政策”農村出身者や一人っ子同士のカップルには第二子を認める等の緩和、しかし軍人と公務員は例外で特に軍人には厳しく罰金だけでなく転籍や降格などの処分も「うち 2 人目の赤ちゃんが生まれました」と知り合いの中国人女性から知らせがあり心配して尋ねると「大丈夫よ米国に行って生んだから中国人でなく米国人なの」米国内で中国人向け施設を 2010 年頃から作るようになり約 500 社、利用した中国人妊婦は約 2 万人。

* レンガで囲まれた愛人村～敷地は全体がレンガに囲まれた入り口は鉄扉で、守衛が出入りする車などを厳重にチェック一般人は立ち入りできない P 1

寝室 4 部屋で約 1、6 億円 高い物件は 6 億円超、米国コンサル会社の試算では（13 年に発表）13 年に海外に移住したもしくは移住申請している富裕層は 64% 流出する資産は 54 兆円、又検討中・子女が移民している、を合わせれば約 82%に達する。

* “裸官”の正体～贈賄等不正収入で妻や子、資産を海外に移す党や政府国有企業の幹部を指し幹部が国内に残る事から名付けられた“裸官”の手口は

- ①子女を留学、愛人に永住権を取らせ移民させる場合も ②妻が続いて出国
- ③地下銀行を使って目立たないように資金移動 ④幹部も本人に身の危険が及べば家族や愛人が待つ海外に逃亡、中国社会科学院の調査では 2,008 年までの 10 年間で海外に逃亡した政府や国有企業の幹部は 1、6～1、8 万人 流出した資産は 14 兆円に達する 07～12 年の間に逃亡を試みた 6230 人の官僚を検挙、特に 13 年に入って凄く増えているのは共産党が腐敗撲滅キャンペーンを開始

* 裸官達は米国人の“人質” 2013 年には投資移民制度で永住権を取得した人の内、中国人は 80%を占め約 8 万人が永住権を取得した、汚職等の規律違反で処分された党員は 18、3 万人と、それまでに例のない規模で高い地位の高官が対象で公安省次官、中国農業銀行副頭取、四川省元副省長等、毎月のペースで中央の次官級や地方の副省長級以上の幹部が免職になっている、そんな彼らのすがる安息の地が最大のライバルである米国だ。

第二章 習 近平の一人娘を探せ

* ハーバード大学にありがとう！を云いたい～2014 年 4 月 18 日ハーバード大学のキャンパス隣接のホテル会場は全員中国人か中国系米国人「ハーバード・チャイナ・フォーラム」約 700 の座席に立ち見が出て会費 1、2 万円でも盛況、同大学留学生の内、中国から約 400 人（非常勤の研修員を加えると約 1100 人）日本人は 100 人前後、ハーバード大学に集まるのは学生だけでなく政府や党の若手官僚も受け入れて習近平指導部でも同大学の出身者が主要ポストを占めている（国家副主席李源潮他）

* 米紙が探し求めた「幻の一人娘」～ハーバード大学に習近平国家主席の長女が在籍しているらしいと、米国や香港などのメディアも報じていた名前は“明沢” 1992 年有名歌手の妻、彭麗媛との間に生まれ、本人に接触できたメディアはなく経歴や近影はベールに包まれている。

* 最高学府の卒業式～母親の面影そのまま～司会者が読んだ名前は彼女の友人から教えられた偽名と一致した、卒業証書を受け取った他の学生にはなかったオーラを感じ、母親似の口元は彼女に違いないと確信しシャッターボタンを押した、授与式が終わると私は彼女に近づき「卒業おめでとう！」と声をかけた、するとどこからともなく長身の中国人らしき 2 人の男性が駆け寄って行く手を塞いだ、近くに彼女の母親そっくりの女性がいた

(妹の叔母の様だった) 後日習明沢を知る極少数の同級生や大学関係者に彼女の写真を見せると全員が彼女に間違いないと口をそろえた。彼女と頻繁に会っている教授に辿り着き匿名を条件に語ってもらった「彼女は小さい時から父親と離れて暮らし母親も年中コンサート等で留守がち、で叔母夫婦がいろいろと手助け、米国行きも両親は反対」党トップになる寸前で習近平の否定的な意向に抗い、留学に踏み切った彼女は相当に強い意志の持ち主だ。

*華麗なる“紅三代カップル” 習明沢とは対照的な子女、重慶市共産党委員会書記薄熙来の長男瓜瓜はハーバード大学の行政大学院ケネディスクールに通っていた、薄は元副総理を務めた実力者を父親に持つトップ 25 に入る政治局員のメンバーで党のトップの座を本気で狙ったことのある野心家的な政治家。瓜瓜はアジア系と国際色豊かな美女とのツーショット写真が溢れている元党政治局常務委員・陳雲の孫娘陳曉丹とは学内で“紅三代カップル”として有名だった、曉丹はエルメス高級バッグ「バーキン」を少なくとも 50 個は持っていたと、二人は党公認のカップルだった様で 2010 年夏チベット旅行の際には地元の警察が警護して警察車両が写っている

*エズラ・ボーゲルにも相談 2012 年 2 月重慶市副市長の王立軍が政治亡命を求めて米国領事館に駆け込んだ、王の上司だった薄熙来が失脚する引き金となった事件だ、瓜瓜は事件発覚後にボーゲルの自宅に駆け込み間もなくキャンパスから姿を消した、陳曉丹との交際も終止符、その 2 ヶ月後には瓜瓜の母谷開来による殺人事件へと発展、瓜瓜が事件の中心にいたことも明るみに出た。

*賄賂の多くが瓜瓜を通して受け渡しされていた～2000 年から 12 年間、妻の谷開来や息子の瓜瓜を介して大連市の企業から計約 4 億円の賄賂を受け取った。

第三章 紅く染まった星条旗

*鄧小平と匹敵する権力者だ～米国の政府や政治家の中では「習近平の権力は強い」という認識でほぼ一致、これと対照的に日本の研究者やメディアは習近平の権力基盤や能力を低く見る傾向がある 2007 年第 7 回共産党大会では最高指導部の政治局常務委員 9 人の中に入ったことを見て経歴や人柄等を慌てて調べた程だ、国家副主席として 09 年に日本を訪れた際に天皇に会見するには 1 ヶ月前に会見申し入れのルールがあり会見が実現しない見通しとなったが習近平は部下を通じ当時の民主党幹事長小沢一郎に猛烈にプッシュして実現した。日米間で習近平の権力観に明らかに大きな隔たりがあり、その差異では習近平が「皇帝レース」を勝ち抜いた様をどう評価するかに派生する。

第四章 **ドキュメント”新皇帝誕生”**

*2012 年 11 月 23 日、5 年に一回共産党大会で最高指導者の胡錦濤が党の総書記を退き兼任していた国家主席と合わせて習近平に交代が内定、最大の焦点は胡錦濤が持つ三つ目のポスト中央軍事委員会主席に絞られた、

世界最大 230 万人を抱える人民解放軍のトップで部隊の移動から核ミサイルの発射迄、全ての権限を握るポストだ、歴代の最高指導者は他のポストを退いてからもそのポストに止まり重要な人事や政策に口を挟んできたが軍事首席だけは「定年」は例外扱いだった、共産党大会の 2 日前に内部高官会議が開かれ、胡錦濤が突然に自ら発言を求め「全ての役職から退き習近平に譲りたい」と、合わせて 2 つの内部規定を提案

① いかなる最高官も引退後は政治に関らない

② 今後軍事主席も含めた全てのポストの任期について例外を認めない

その突然の提案に習近平は「胡錦濤同志の決断に最高の敬意を表したい」と二人の予想外の提案に会場は静まり返った。胡錦濤は共産党トップになってから 10 年間、常に江沢民の目を気にして政策運営してきた、経済や政治の改革を進められず独自性も発揮できなかった、最後になって自ら退く形で、江沢民を“道連れ”にしたのである。胡錦濤は今回の党大会に至る迄、江沢民と水面下で激しい駆け引きを繰り広げ最後は共倒れに近い形で権力舞台から去った。それ程までに、あまりにも激しい死闘の末の決断だった。

* 禁断の“紅線電話”～2012 年 2 月 16 日政治局常務委員会が開かれた（最高意思決定機関で常務委員 9 人）議長の胡錦濤が会議の 10 日前に重慶市副市長の王立軍による米国総領事館駆け込み事件で「上司の薄熙来と対立した王は亡命を求めた」米国国務長官だったヒラリークリントンは「彼は薄熙来の右腕として汚職や残虐な行為の記録があり亡命は認められないが彼が北京に行って中央政府に真実を伝えたいと求めたのでアレンジした」と、国家安全省の調べに対して薄熙来の妻が知人の英国人の実業家に毒を飲ませて殺害した事と、一家の巨額不正蓄財について全て暴露し、この事件は胡錦濤にとりチャンスだった、元々薄熙来は江沢民との関係が近かった、薄熙来の処分は常任委員会の意見が真っ二つに割れ反対したのはいずれも江沢民に近い関係者の 4 人で江沢民の意向に沿う判断の様だ、残りの一人習近平は訪米中だったが電話で責任追及の意向を伝え決定づけた。習近平は薄熙来と同じ太子党に属し幼い頃から薄熙来の事を兄さん、と慕っていた、両家ともに両親が副首相迄登り詰めた実力者で名家中の名家、何故に習が盟友とみられる薄熙来の責任追及に同意したのか、党の規定で違法な盗聴行為は最も罪の重いひとつで王は薄の命を受け紅線電話（重要な指示や機密情報の殆どがこの回線で伝えられる）の盗聴をしていたと見られ、胡錦濤は薄熙来本人やその周辺を本格的に調べて周到な準備をしていたと思わせる。

第五章 反日狂騒曲

～張志軍は中国外相に次ぐ筆頭外務次官で「原子爆弾並みの破壊力」と発言～
2012 年 9 月上旬に張次官が数人の部下だけを連れて極秘訪問で

日本政府が進めていた尖閣諸島の国有化に対する抗議だった「もし日本政府が手続きを進めれば中国人の怒りが火山の様に爆発、中日関係に対する破壊力は原子爆弾にも劣らない」と。

- * 「日本に裏切られた」と激怒、2012年9月9日アジア太平洋経済協力会議の片隅で野田首相と胡錦濤国家主席が立ち話で胡錦濤は釣魚島（尖閣諸島）の問題で抗議するも日本政府は11日移転登記した、この対応に最も激怒したのは胡主席、これまで日本とは友好的な関係を築いてきた党内で随一の親日派で主席と関係が深い温家宝、李克強が相次いで強固発言、丁度この頃胡錦濤は側近の令計画の不祥事の対応に追われ次期指導部人事をめぐる江沢民との権力闘争も激しくなっていて対日重視の政策を掲げて党内随一の親日派の胡錦濤が引退直前の日本による国有化は後ろ足で砂をかけたように思われた。
- * 胡錦濤の日本人に対する印象（2008年5月）～「中国でも放映されたテレビドラマ“おしん”の印象が強く残っています、多くの日本の友人との交流を通じて日本国民の知恵や我慢強さに深い印象を受けました」と。
- * “対日交流事業の責任者”という過去～胡錦濤は共青团トップだった1984年中国建国35周年の記念式典に3千人の日本青少年を中国に招く事業の責任者を務めた、全ての日程に同行し急病になった日本人に付き添い看病した事も、2008年の訪日で最も先に会ったのは「古い友人」3千人の訪中団メンバーで、歌手の芹洋子や「おしん」の子役を演じた女優小林綾子等、芹とは滞在先のホテルの自室で夫人と共に会い芹が歌った「四季の歌」は中国でも流行し胡錦濤は日本語でも歌える程の大ファン、早稲田大学での記念講演で胡は「日本政府は中国に円借款協力（総額3兆円）を提供し中国の近代化建設を促進する上で積極的な役割を果たし多くの日本人の方々が日中友好事業の為に心血を注がれた事を中国人民は永久に明記してゆきます」この講演は中国国営テレビで全土に放映され多くの中国人は初めて日本の援助による貢献について知られることになった。
- * ネット住民も日本を称賛～08年に胡錦濤が日本訪問の直後に中国四川省をM8.0の地震が襲い9万人近い犠牲者を出す大惨事、軍の出動が遅れ胡錦濤も日本での疲れで寝込み発生から4日後に漸く現地を訪れ作業の遅れを取り戻す為に重大な決断、初めて外国救援を受け入れる事を決め、他国に先駆けて日本の国際救援隊が現地入りを認められた、その活躍ぶりはインターネットでも称賛の声書き込まれ日中関係が最良の時となった。
- * 江沢民が「歴史問題」にこだわる理由～1998年11月江沢民は国家元首として初めて訪日、早稲田大学で講演「日本軍国主義は全面的な中国侵略戦争で軍民併せて35百万人が死傷、6千億ドル以上損失を受けた」と、江沢民滞在中に繰り返し歴史問題を持ち出し小淵総理と交わした

日中共同宣言にも署名しなかった皇居での夕食会でも天皇の前で言及し日本国民の反中感情を招いた。

第六章 **不死身の男**～江沢民専用の別荘～東京ドーム 42 個分約 200 ヘクタール 400 の客室、40 のレストラン、温泉、ジム、大型会議室そして 2 棟は（巨大な四合院造りの建物、豪華で荘厳な門）江沢民専用の別荘なのだ、04 年引退後で無役にも拘らず引き続きこの別荘に住み影響力を保った。その為胡錦濤は最後まで他の常務委員と同じ九分の一の存在でしかなかった。

江沢民は 20 年以上も事実上、党の席列トップとして君臨し続けた。

* 臨終の鄧小平と握手～1997 年鄧は病状が悪化、最後の権力者を病気見舞いで胡錦濤の手を握りながら「胡錦濤同志、我が国の未来は任せた」と、江沢民は胡の代わりに曾慶紅を後継者にしようと何度も企てたが実現しなかった。

第七章 **サラブレッドの悲劇**～李克強はすれ違った 10 台の車ナンバーを覚えていた、更に 3 時間位の演説ならほぼすべて暗記していた。

* 穴あきワイシャツ～1980 年 7 月中国政府機関の局長宅に穴あきシャツ姿の男が訪れた、あのみすぼらしい男は誰だい「習近平本人は云いたがらないが元副首相の息子だ」当時 27 歳、仲間同士 5 人でアルコール度数 60 度近い白酒 10 本近くも空けても乱れる事はなく警戒感を解かなかった、父親の習仲勳は 59 年に副首相に昇格、周恩来の側近として活躍していたが権力闘争で 62 年には失脚文化大革命では反革命分子として収監され母もたびたび街中に引きずり出され暴力を振るわれた近平も 16 歳で農村に送られ洞窟式住居で 6 年間暮らし貧しさのあまり北京に逃げ帰ったこともあった、文革が 78 年に終わり仲勳は復活、広東省のトップ「第一書記になり近平も精華大学を卒業し軍の仕事を始めた、その後最高指導部、政治局常務委員会に入るまでの 25 年間地方回り」丁度その頃、李克強は 77 年に超難関の北京大学法学部に合格、同期生 82 人の内、常にトップ、特に英語に熱を入れていた。

* 総書記を約束された「42 歳と 29 歳」～1955 年来日した中国青年団代表団の歓迎会で団長は胡錦濤、副団長は李克強、当時から二人は注目を集めていて、将来は胡さんが総書記、後任は李さんだと、そして二人は兄弟の様だった。一方、習近平は 95 年に 42 歳で福建省副書記の時に妻となる麗媛・当時 24 歳と出会い人民解放軍専属歌手で人気を博していたが習は一地方幹部に過ぎなかった、初対面ですっかり話し込み彼と結婚しようと思ひ、近平からも 40 分もしないうちに妻にしようと思つたと。

* 151 人中 151 番目の最下位当選～中国共産党指導機関の中央委員会は 86 百万人の党员の中から選挙で約 200 人とその補欠 150 人からなる中央委員候補からなる中央委員の中から総書記も首相も選ばれ李克強は既に中央委員習近平はこの時に党内序列は 344 位になったが習を次世代の指導者

候補にしたい高官が画策して 151 番目に押し込んだ、2007 年 10 月 22 日第 17 回党大会では誰もが「ポスト胡錦濤は李克強」と信じていた、しかし、政治局常務委員 9 人が党の序列に従い現れた時、習が 6 位・李が 7 位まさかの逆転劇になった、胡錦濤が政治生命をかけた一大改革が直系の後継者李の立場を危うくさせて、その時の悔しさは生半可ではなかった筈だ、側近の相次ぐ摘発で土俵際まで追い込まれた江沢民派は思わぬ「敵失」で九死に一生を得て意中の習近平を担いで反転攻勢に出る。

- *何が勝負を分けたか～常に勝つことを周囲から期待され胡錦濤ら幹部が必死に李を盛り上げようとしたが、全力疾走してきた駿馬には第四コーナーで追いつける体力も気力も亡くなっていた、一方のダークホースは最後の一騎打ちに向け確り脚をためていた、又毛沢東の云っていた「指導者になるには軍の経歴が必要だ」の教えも忠実に守って軍関係者の評価も高く「私達の人」という親近感の強い反応だ、軍歴を持たない胡錦濤や江沢民が軍を掌握するのに時間がかかったのに比べ有利に働いた。李の性格は北京大同期生が「大学時代から論客だったが相手を論破し過ぎて煙たがられる」こともあったと。習近平は引退した高官をまめに慰問し部下の意見にもジックリ耳を傾けてきた「習近平より長けた人物はいない」と。

第八章 **クーデター** ～最も神秘的な刑務所～秦城監獄は 1960 年ソ連の援助で建てられ全国で唯一公安省が管轄、囚人は政府高官を含める政治犯が大半、又文革を主導した毛沢東夫人の江青ら四人組、改革開放後は 98 年の陳希同・北京市書記 2008 年陳良宇・上海市書記等何れも時の最高指導者のライバルとみなされた直轄市トップの実力者で政治局常務委員会入りを目前にして失脚に追い込まれ激しい権力闘争に敗れた中国共産党の「墓場」だ、2013 年 9 月新たな政治局経験者・重慶市書記だった薄熙来が父で副首相を務めた薄一波も文化大革命で失脚、親子二代でここに収監された。薄熙来の妻が使用人と共に知人の英国人実業家を殺害という前代未聞の事件で薄熙来本人も 3 億 7 千万円もの収賄罪で無期懲役の判決。

- *逮捕者は 25 万人超～**トラもハエも退治しろ**～習近平が 2012 年 11 月党書記就任の際ハエは一般党員・トラは高官を指し大規模な腐敗撲滅キャンペーンを展開し 14 年 6 月前党中央軍事委員会副主席の徐才厚が職権悪用の賄賂受領で党籍はく奪、軍の元最高幹部が汚職で摘発されたのは初めての事、その半年後に政治局常務委員を務めた周永康の党籍はく奪と逮捕を発表、主な容疑は「巨額な賄賂受領に加え党の政治、組織、機密保持の規則に重大な違反」「権力や金銭を通じて多数の女性と性的な関係を結んだ」と事件の悪質性を強調、たった 9 人の常務委員は云わば「神」の様な存在で聖域化とされていたが習近平はためらうことなく摘発を展開した。

- * 将軍府の主は戻らず～約 2 ヘクタールの中庭を囲むように重厚な 2 階建ての 4 棟で四合院と言われる伝統的な家屋と装飾品ばかりだ、倉庫には金塊や骨董品がギッシリ、主は中国軍の予算・物品調達担当の総後勤部の副部長・谷俊山中将で 230 万人の人民解放軍トップ 30 人に入る高官で最も資金を動かせるポスト 12 年 2 月突然に国防相は谷の解任を発表、真相は軍が持っていた資産価値約 5 兆 4 千万円を知人の不動産会社に十分の一ほどで売却、見返りに約 36 百億円超の賄賂を受領、の容疑だった。谷の事件は更に大疑獄に発展。
- * 「軍の階級」を売っている～谷俊山は徐才厚（党中央軍事委員会副主席）との出会いが運命を大きく変え、徐は頭の回転が速く気が利き出世頭の徐に接待攻勢、若く美しい女性兵士を同伴させ、徐の長女の結婚式には数百キロの金塊をプレゼントは部隊内での語り草だった。二人は軍の階級を最低でも 9 百万円、将官になるには 5 億 4 千万円が必要と言われ入隊するだけで 108 万円前後を求められ谷を通じピラミッドの頂点にいる徐に上納される仕組み、軍の幹部ですら月給 18 万円上納金を捻出する為に賄賂を求め腐敗の原因となった徐らの売官は 500 件に上り総額 1800 億円
- * 王が明かしたクーデター計画～2012 年 2 月王立軍重慶市副市長が米国総領事館に駆け込んだ直後に国防相は谷俊山を解任谷の上司・徐の本格捜査を始め「薄熙来が徐才厚らと政変＝総書記の習近平を引きずり下ろし、薄熙来自らトップに就く計画」の本格捜査を始めた。
- * 薄熙来の不正蓄財～海外に移転した財産は当局が把握しただけで 7200 億円、2013 年に汚職疑惑で取り調べられた官僚の 95%は愛人がいた。
- * 「いつか皇帝になる」～薄熙来の父一波は毛沢東と革命に参加、親中国初代の財務相、56 年に副首相、文化革命で失脚・弾圧を受け夫人は服毒自殺、文革が終わると復活、1982 年現役を退くと NO2 の副主任として実権を握り、最高指導部の政治局常務委員会を凌ぐ権限を持った、87 年総書記の胡耀邦を解任、後任の趙紫陽も天安門事件への対応を批判して辞職に追い込んだ、鄧小平の懐刀として薄一波が画策した。
- * 「一つの山に二匹のトラは生きられない」～棒種島と呼ばれる別荘地は 1958 年に党高官向け避暑地として作られ毛沢東主席や周恩来には専用棟があった。薄熙来はこの施設をフル活用し高官を接待、趙紫陽や江沢民やその他の高官とその子女を接待、ところが一度も接待されなかった習近平、07 年 1 月父の一波が死去、後ろ盾を失い一気に失速。
- * 多数の戦車装甲車出動～周永康は江沢民が院政を敷くために登用、政治局常務委員序列 19 番目だが 200 万の警察・武装警官の他、検察・裁判所を統括する書記も兼ね逮捕から判決まで全て決める強大な権力を持っていた、周はその権力を盾に最後の最後まで薄熙来を擁護していた。

警察権・司法権を握る周と軍制服組トップの徐才原が謀反に動こうとしたクーデター計画だ、慌てた指導部が軍を出動させてクーデターには発展せず。

* 豚と米を食っているだけの貧農から大富豪に～最後まで薄熙来をかばい続けた周は農家の三兄弟の長男、貧しい家庭で育ち、コツコツ勉強し成績はトップクラスだった 96 年油田の親会社で中国最大の石油ガス国有企業社長に、その後国土資源省の大臣、2000 年には四川省トップの書記、その頃から悪い評判、妻が交通事故死直後に 28 歳年下の国営中央テレビの女性ディレクターと再婚巨額な賄賂を懐に入れていた説は半ば公然となっていた、2012 年から関係者の事情聴取で捜査当局は「500 人以上の元部下や親族を摘発し 2 兆 2 千億円もの財産を没収、その中には 30 人を超える副省長や次官級以上の幹部の他に、愛人だった女性等も含まれる」深刻な汚職を抱えていた。周永康と徐才原は引退後も生き残る為に薄熙来を担ぎ出す必要に迫られていたからクーデターというイチカバチの賭けに出るしかなかった。

* 胡錦濤の側近も取り込んだ～胡錦濤の最側近・令計画もこの政変に加わっていた令は既述のように息子が乗ったフェラーリの事故対応を巡るトラブルや妻による多額の不正資金流用の疑惑を抱えていた為、薄熙来と思惑が一致、予想もしなかった王立軍の駆け込み事件のお陰で薄熙来らの企てが発覚し未然に防ぐ事が出来た、もしクーデターが起きていたら総書記になったばかりの習近平は裁判にかけられる可能性は十分にあり正に食うか食われるか激変。

第九章 **紅二代** ～別荘からの強制撤去～胡錦濤は 18 回党大会で全てのポストから退く代わりに「如何なる党高官も引退後は政治に関与しない」という新たな内部規定を設けて江沢民による「院政」に終止符を打った。政変という重大事で周と徐の処分は江沢民だけが最後まで同意せず、習近平は胡錦濤と手を組み、江沢民との全面対決だった。

* 空軍精鋭部隊による身辺警護～総書記になったばかりの習近平はつい最近まで最高実力者として君臨していた江沢民に勝負を挑むのは並大抵のことではなかった身辺警護に敢て徐才原との関係が最も薄い空軍の空挺部隊の精鋭に任せ安全を獲得する為にできるだけ軍用機に乗り地下道を使って移動する程に注意を払った。江沢民の長男・綿恒は父親そっくりで米国の大学で電子物理の博士号、2014 年には上海科学技術大学の学長に就任、父親の威光を使って巨額の利益を儲けていた、米国留学の人脈を生かして多額の資金を不正送金など江沢民ファミリーに批判が高まっていた、習近平等指導部はある秘策を出した、米国の税法で協定を結ぶ国と相手国に住む自国民の金融情報交換だ「不死身の皇帝」江沢民も今回ばかりは窮地に追い込まれた。

* 江沢民からの「**命乞い**」も習近平は一方的に電話を切った～胡錦濤が 10 年かけてできなかった江沢民の影響力を完全に取り除く事に成功した。 P 9

- * 父親は毛沢東の秘書、胡木英はママチャリでやってきた、親の世代の革命精神を学ぼうと「北京延安女聯誼会」を立ち上げ会長に就いた、太子党は親の権威を利用して金儲けする高官子弟等をそう呼んでいるが「紅二代」は国民の為に奉仕する事を指導部に働きかける為のものと。紅二代である習近平はしっかり腐敗撲滅を進め改革をしていると信じ私達は支持していると。
- * “私は第五世代ではない第二世代だ” 習近平が紅二代の仲間と言うセリフだ、第一世代毛沢東、第二世代鄧小平、第三世代江沢民、第四世代胡錦濤で習近平は自分こそが毛沢東に次ぐ指導者という意識が込められている。
- * 習近平が信じる「性悪説」の教えは孟子の徳治を王道であるとし荀子 20 巻を習近平は読み込み就任当時から中国の夢である強国も「礼を尊重し法を完備すれば国は永遠である」と荀子が説いた君主の心得を信じて国の立て直しに突き進んでいるのでしょ！

(完)